イバイチ!

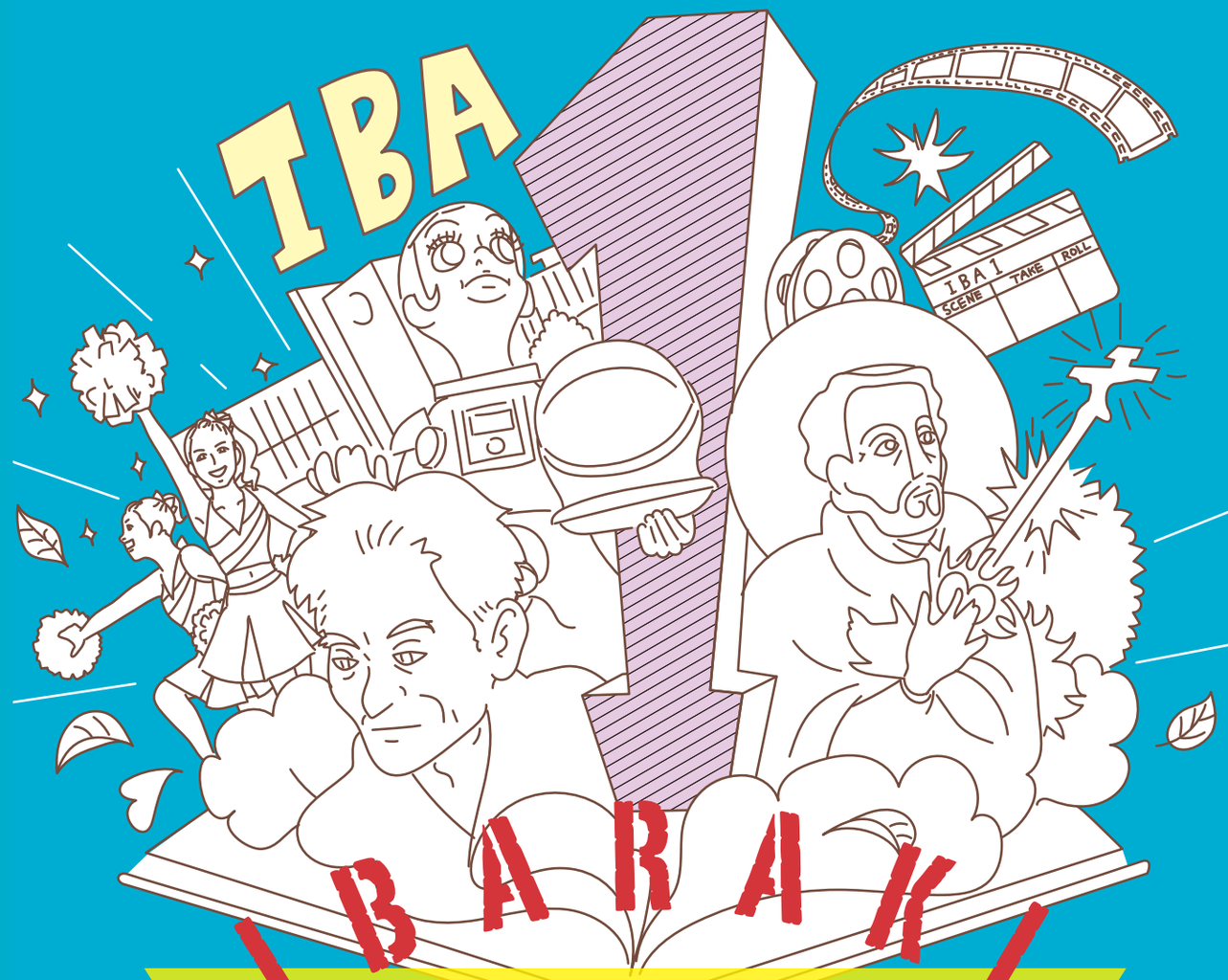
とは？

市制施行70周年を記念して茨木の魅力発信冊子を発行するにあたり、冊子のタイトルを『イバイチ！』としました。これは、「茨木のいちばん」を略したものです。いちばんには、茨木でいちばん、大阪でいちばん、日本・世界でいちばん、ちょっとおもしろいユニークないちばんなど、いろいろないちばんがあります。そんないちばんを知ることで、自分たちのまちの魅力を新たに発見したり、 誇りに思 ってもらいたい。そんな思いを込めて、『イバイチ！』を制作しました。

この冊子の目的は、 ナンバーワンを決定し賞賛することではありません。みなさんそれぞれに自分にとってのいちばんがあり、大切なものがあります。すべてのいちばんがすごいわけでもありません。ここで紹介しているのは、茨木が持つ様々な魅力のほんの一部。「コレはいちばんじゃなくて二番だよ！」「アッチのほうが絶対いちばん！」。この冊子をきっかけに、茨木をもっと知り、何かを感じ、みなさんそれぞれの「イバイチ！」を見つけていただければと思います。

イバイチ!

茨木のいちばん。



茨木のいちばんをピックアップ【イバイチ！8景】
オール茨木ロケ 映画『葬式の名人』監督×脚本×市長
「イバラード」を描いた 茨木の画家・井上直久氏の書き下ろしエッセイ

市制施行70周年を記念して、茨木の魅力を紹介！

茨木〝いちばん〟全体マップ

住んでいるまちの形って案外知らないものですよね。
茨木市は豊かな自然が北部に広がり市街地は南部に位置する、
南北に細長い地形をしています。
地図を片手にお気に入りの「いちばん」を探しに出かけてみませんか？

バーベキューもできる！里山センター

里山保全活動の拠点で、四季に応じたイベントや木工クラフト体験などを行っています。また、バーベキューコーナーも利用できます。

自然豊かな西河原公園

「大阪みどりの百選」に選ばれている自然豊かな公園で、毎年6月にはホタルも見ることができます。ジャンボ滑り台は斜面が急でかなりスリリング。隣接する西河原市民プールには159mのウォータースライダーがあります。

茨木で一番眺めのいい公園、彩都西公園

モノレール彩都西駅を降りたらすぐ！約70mのローラー滑り台やバッタ形の遊具など子どもたちにも大人気の公園です。周辺にはおしゃれなカフェも。

茨木の歴史がここに。茨木市立文化財資料館

先人たちが残した貴重な文化財である銅鐸の鋳型、土器、古墳の模型、古文書、民俗資料など、約700点を展示。茨木の歴史に触れることができます。

茨木市の花は「バラ」！若園公園バラ園

約150品種、約2,300株のバラは、5月初旬～6月初旬、10月下旬～11月中旬の春・夏年2回、見事な花を咲かせます。

地図／マップデザイン研究室

イバイチ！景

イマイチじゃない、
茨木のいちばんを
市内からピックアップ！

その1 茨木市立川端康成文学館

日本でいちばん初めのノーベル文学賞。

1968年に、日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成。3歳の幼少期から18歳まで、多感な時期を茨木市で過ごした偉大な小説家の当時の様子を伝える遺品や書簡、原稿や写真など、約400点の資料を常設展示している。(P16) ●上中条2-11-25 ☎072-625-5978 9:00~17:00 火曜＆祝日の翌日、年末年始休

その2 いばきたの田園風景

いちばんほっこりする風景。

茨木市北部、通称「いばきた」は、農業も盛んでニッポンの原風景のような田園風景が広がる。馬と遊べる広場や野球やテニスなどを楽しめるスポーツ公園、古民家を利用したカフェなど、休日にゆっくり利用できる施設もあちこちに点在しているので、自然といっしょに楽しみたい。

茨木でいちばん(?)大きなアート作品。

その3

サン・チャイルド

阪急南茨木駅前のロータリーで、未来を見つめるかのように立つ6.2mの子どもの像。小・中・高校時代を茨木市で過ごし、小さい頃は万博公園でよく遊んだというアーティスト、ヤノベケンジさんの作品で、2011年に発生した東日本大震災から1年後、再生、復興していく人々に夢と希望と勇気を与えるモニュメントとして制作された。

その4

茨木春日丘教会

世界でいちばん知られた光の教会。

世界中でいちばん知られている日本の建築家と言っていい安藤忠雄さんが設計した教会。光のクロスが独特の礼拝堂へ世界中から多くの人が訪れる。毎週日曜日の午前10時30分から行われる主日礼拝は、キリスト教信徒でなくても参加でき、アットホームな雰囲気を体感できるので、まずはこちらへ参加してみては。見学はネットで予約。http://ibaraki-kasugaoka-church.jp/ ●茨木市北春日丘4-3-50

茨木でいちばん有名な人物画。

その5

聖フランシスコ・ザビエル像

歴史の教科書でもよく見るこの有名な絵画は、実は茨木市で発見されたもの。市北部の千提寺、茨木市立キリシタン遺物史料館（P25）の隣にある東家に隠されていたのが、大正9年（1920）に発見された。

神戸市立博物館蔵

大阪でいちばん美しいランドスケープ。

その6

岩倉公園と立命館大学大阪いばらきキャンパス

2015年に開設した立命館大学大阪いばらきキャンパス。隣接する岩倉公園との塀のない一体感あるランドスケープは、2015年度の「大阪ランドスケープ賞」の最高位にあたる大阪府知事賞を受賞した。

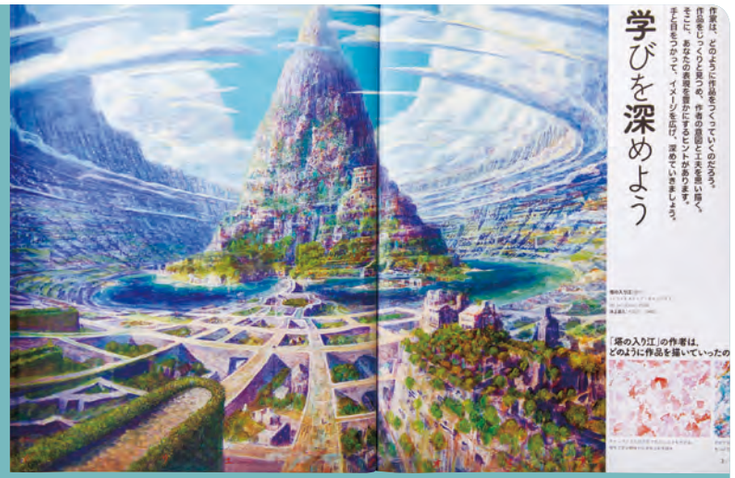
日本の学校で、いちばん初めにできたプール。

その7

大阪府立茨木高等学校プール

水球の伝統校としても知られる茨木高校。初代のプールは、学校としては初めて大正5年（1916）に生徒たちの手によってつくられた。水泳の五輪メダリストも輩出し、今も50m×25mの立派なプールが校内に。

茨木でいちばん美術教科書に大きく作品が載った画家。



その8

井上直久さんとイバラード

春日丘高校の元美術教師で、茨木市在住の画家・井上直久さんは、全国の約半数の中学で採用されている日本文教出版の美術教科書に「塔の入り江」「リゾートハット」、そして光村図書では「遠くが見えた日」の作品が掲載されている。

脚本・大野裕之さん × 監督・樋口尚文さん × 福岡洋一市長

映画『葬式の名人』の大半の撮影が行われた茨木高校の校庭で。3人の後方にある石碑の「以文会友」の文字は川端康成の筆による。「学問を通しての交友」を意味する「論語」の言葉だ。

オール茨木ロケの『葬式の名人』をめぐるストーリー。

映画、茨木、そしてその次へ。

茨木発映画『葬式の名人』の撮影を終え、3人のキーマンが映画、川端康成、茨木のことを語った。

コメディだけど、川端康成のやさしさが映像ににじみ出て、泣けてくる。

「葬式と名人という言葉の組み合わせの妙は、さすが川端康成」。

福岡　このたびは、茨木市制施行70周年記念映画『葬式の名人』の撮影おつかれさまでした。ロケ直前に地震があり、撮影に影響があったことと思います。

樋口　市のみなさんには本当によくやっていただきました。地震の影響で撮影を見合わせたロケ地の代わりを早急に見つけていただいたり。

福岡　記録的な酷暑で、現場も大変だったと思うのですが。

樋口　今回一つの目論見として、スタッフ編成とキャスト編成を大胆にやったんですね。スタッフは日本映画のレジェンドといえる方々を起用。キャストは8割方20歳代の若い最前線スターを取り揃えて。こういうカップリングっていまどきの映画では普通ないんですよ。だから異様に活気のある現場でした。撮影の75歳・中堀正夫さんがいちばん元気で、若い人もそれに応える。暑さも吹き飛ばしてくれたと思います。

福岡　私も現場にうかがいましたが、みなさん暑い中、本当に熱のこもった演技と撮影をされてました。今回の映画のストーリーを簡単に教えていただいていいですか。

大野　茨木高校の門の前で卒業生が交通事故にあって亡くなるところから始まるんですね。同級生たちが集まって、ひょんなことから学校の中でお通夜をする。基本はコメディなんですけど、死んだ男と結婚していた同級生がいて、残された子どもがいて。母と子、父と子の話でもあります。

福岡　今回、映画を制作するにあたって、キーワードは「茨木」「川端康成」「本物」の3つと思っていました。本物である以上は、素人の私は口出しは絶対にしないと決めていて。だから脚本も茨木高校出身の大野さんにお願いしました。

大野　茨木高校に3年間通い、人生の最も多感で素晴らしい時期を茨木で過ごした僕にとって、ここで映画をつくるならどうすればいいんだろうと考えたときに、川端康成をモチーフに映画が作れないかなと思いました。最初は、川端康成が茨木で過ごしていた頃の作品を組み合わせて、明治・大正時代の茨木のストーリーを作ろうと思ったんです。

右／川端ゆかりの「石丸写真館」の前では映画序盤の見せ場を撮影。中／お通夜のシーンを撮った茨木高校内の食堂。左／雰囲気のある「さわらぎや家具店」の前で。

福岡　川端康成は3歳から18歳まで茨木で過ごしていましたね。

大野　ただ、プロデューサーの榎望（えのきのぞむ）さんから、それよりも今の茨木を舞台に、川端康成から何かインスピレーションを得てオリジナルのストーリーをつくったほうがいいんじゃないかとアドバイスを受けて。そして榎さんが川端のいろんな作品の中から『葬式の名人』を指差して、「これ、タイトル面白いね」って言ったんですよ。

福岡　最初タイトルを聞いたときには、縁起でもない。いったい何人死ぬんだろうと思いましたけどね（笑）

大野　「葬式」と「名人」という言葉の組み合わせの妙は、さすが川端康成ですよね。いろんな意味に取れる。人が避けられないことは、生きることと死ぬことですから。だから葬式の名人って人生の名人でもあって。そういう意味で、今回『葬式の名人』というタイトルで、人の生を描きたいなと思いました。

樋口　笑いと悲劇って表裏一体なんですよね。今回、コメディをつくろうと始めたのですが、ラッシュ（作業前の映像）を観たときにみんな泣いてるんですよ。映像からにじみ出ているものがやさし

今回の撮影で、茨木市本町商店会を歩いていると、偶然にも『葬式の名人』のうちわを持ってくれていた「森青果」のご夫婦。「映画の撮影中は、この店の前に棺桶が置かれていましたなあ」とフレンドリーな笑顔を見せてくれた。

いんですよね。

大野　今回、川端康成の作品をもう一度読み直してみて、幼少の時に両親を失って、数えの16歳までに全ての肉親を失う。そこから透徹した死生観を持って、人の生を描いたということだけでは済まされない何かがある。多感な時期に全ての肉親を失ったという絶望があるからこそ、やさしさを求める心、人からのやさしさを感じる心がとても強いと思うんですね。

福岡　樋口監督には、撮影前に市役所に来ていただいたんですが、茨木は48年ぶりだったんですね？

樋口　そうです。JR茨木駅に降りたった瞬間に、この街は私の原点だと気づいた。それは万博なんですね。駅から出た瞬間の風景が変わっていなかった。あっここ来たことあるって。そのとき、自分の成分の大半は万博でできている。心のふるさとに帰って来たんだなと思いました。

福岡　そうだったんですね。その日ロケハンされたあと、監督に茨木市の印象を聞いたら「マイペース」とおっしゃってました。

樋口　はい。すごくおっとりとした上品なやんわりした街だなというのがあって。すごく好きになりましたね。結局その日回ったところを、撮影で最後まで使いきりましたからね。たこ焼き屋さんを筆頭に。あのアーケード（茨木市本町商店会）いいなあと思ったら、やっぱりそこを使っちゃいましたしね。

大野　茨木ってすごくバランスのとれた街だと思うんですよ。たとえば、芦屋なら芦屋、京都の東山なら東山で、そこに住むべき人が想定できる街もありますが、茨木はいろんな人が住んでいても許される包容力があると思います。特徴がないという人もいるんですが、そんなものはなくてよくって。個人が自由でいられるというのは、今の世の中では得難いことなので。

福岡　お人好しとまでは言わないけど、人がいい方が多いとは常々思いますね。

大野　映画の撮影は、市民の方々もエキストラで参加していただいたり、お祭りみたいに楽しんでもらえたと思うんですよ。すごく盛り上がってくれたし。でも普通そこまで盛り上がったらトラブルもあるはずなんですよ。それが一切なくて。それは他の製作スタッフも驚いてらっしゃいましたね。

川端康成も通ったという「堀廣旭堂」での撮影のため制作されたポスターが、今も店頭に。

樋口　茨木高校の撮影で、生徒さんにも多数出演してもらったんですが、ホントにいい生徒さんばっかりで、めちゃくちゃ好感持ちましたね。すごいスタッフやスターといっしょに普通に学校にいる。すごく稀有な体験をしたと思うんで、あの中から映画の創り手が出てきたらうれしいですね。

「華々しくなくていい。茨木は、できることをひたひたと続けてほしい」。

福岡　映画制作発表の記者会見のときに、監督には「絵になる街・茨木」をしっかり撮ってほしいとお願いしました。

樋口　実は、そのとき心の中で「でもこの映画、8割が学校の中のシーンだよな」と心配してたんですよ（笑）。でもラッシュを見たら、安心しました。もちろん学校の中もきれいに撮ってるんですが、ちょっと古い街を歩いたり山に登ったりのシーンがすごくいい。

福岡　山のシーンは、どちらで撮ったんですか？

樋口　銭原ですね。そこを行燈を持って生徒たちに歩いてもらったんですが、幻想的で美しかった。だから市長のご要望には答えられたと自負しています。

福岡　ありがとうございます。

樋口　よくあるご当地映画では、とにかく観光名所をちりばめているだけのものも多いのですが、今回の『葬式の名人』は、そういう映画にはしたくなかった。学校でのシーンを軸に、少しずつ効果的に茨木のいろいろな場所が登場します。

茨木神社の境内を歩く3人。映画では、亡くなった男の両親が、しみじみと回想をするシーンで登場。

福岡　街中はどういう場所が出てくるのですか？

樋口　茨木阪急本通商店街とか茨木神社とかですね。

大野　あとは元茨木川緑地の土手とか桜通りとか。

福岡　今回の映画によって、この街を絵にするだけでも「次なる茨木へ。」つながると思っています。茨木には、いろんな材料があります。それをどうまく市民のみなさんのために味付けしていくか、あるいは味付けしていただくか。

大野　川端康成がおもしろいことを言ってて。芸術家が生まれるというのは、代々続いてきた名家がだんだん衰えてきて、ロウソクの炎が最後の瞬間に再び輝こうとするようなものだと。そういう意味で、カルチャーや芸術などを育てるには、ものすごく時間がかかるんですよ。だから茨木市は、市制70周年で終わらず、80年、100年に向けていろんなことをやっていってほしい。

樋口　今の大野さんの話を聞いて思ったのが、旬はつくってほしくないということ。今年70周年だからと大きく花火を上げてそれで終わりというのはつまらない。マイペースな街だから、たゆみなくできることをひたひたと続けていってほしい。華々しくやらなくていいから、次なる茨木をずっと言い続けていってほしいです。

福岡　ありがとうございます。これからいろんなことに挑戦していって、この街の中でどんどんおもしろいことが起きて、いろんな方が楽しんで充実した人生を過ごしていただける街になるよう、たゆみなく歩み続けます。

元茨木川緑地の土手で。ここはラストシーンの舞台として使われ、「すごくいい風景。ここは聖地になりますよ」と大野さん。

葬式の名人

『葬式の名人』

高校卒業から10年、同級生のお通夜に集まった面々は、見たことも聞いたこともない、奇想天外なお通夜を体験する―川端康成が少年期を過ごした茨木を舞台に、『十六歳の日記』『師の相を肩に』『少年』『バッタと鈴虫』『葬式の名人』『片腕』など、数々の川端作品を原案としたオリジナルストーリーの群像コメディ。

福岡洋一

1975年大阪府生まれ。大阪大学法学部、甲南大学法科大学院を経て、2010年より法律事務所に弁護士として勤務。2016年に茨木市長に就任する。今回の映画では高校のサッカー部顧問役として出演している。

樋口尚文

1962年佐賀県生まれ。早稲田大学政経学部時代に映画評論家デビュー。『大島渚のすべて』ほか著書多数。電通のクリエイティブ・ディレクターとしても活躍。2013年、『インターミッション』で映画監督に進出。

大野裕之

1974年大阪府生まれ。茨木高校・京都大学卒。映画『太秦ライムライト』の脚本・製作でファンタジア国際映画祭最優秀作品賞。著書『チャップリンとヒトラー』で第37回サントリー学芸賞。日本チャップリン協会会長。

川端康成と青春。

3歳から18歳までを茨木で過ごした川端康成。映画、小説が描く多感な青春を今一度フィーチャー。

映画『葬式の名人』は、川端康成の『十六歳の日記』『師の棺を肩に』『少年』『葬式の名人』など、少年期を舞台にした作品をモチーフにしている。川端康成のやさしさや多感さがあふれたこれらの小説は、どのようなものなのか？

川端ゆかりの場所も案内しながら紹介する。

映画『葬式の名人』は、茨木市が市制施行70周年であること、川端康成の作品へのオマージュ、茨木高校出身で茨木市ゆかりの脚本家という、3つの要素の巡り合わせから生まれたもの。ロケは、茨木高校を中心に、市街地や郊外など、全て茨木市内で行われ、撮影に『幻の光』などの中堀正夫、美術に『リップヴァンウィンクルの花嫁』などの部谷（へや）京子など、映画界を代表するスタッフが茨木に集結した。

茨木時代を描いた作品

『十六歳の日記』

康成が病床の祖父の様子を写実的に描いた作品。中学生の時に茨木で書いた実質的な処女作とされている。

『師の棺を肩に』

旧制茨木中学時代、恩師が亡くなった時の心情と葬儀の様子を描写。師の棺を20〜30人の学生が担ぐシーンが印象的。

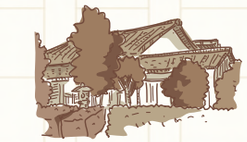
『少年』

中学時代の同級生、清野くんへの恋心を当時の日記をもとに綴った作品。当時の商店街の様子も描かれている。

『葬式の名人』

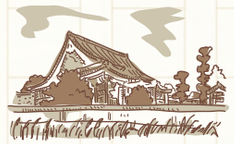
両親、祖父母を次々と亡くした主人公は、従兄に電話で「あんた、葬式の名人やさかい」と言われ、半生をふりかえる。

川端康成ゆかりの場所



康成幼少期の家

康成は3歳から15歳まで豊川（現在の宿久庄）で暮らした。屋敷は建て替えられたが、庭などが昔の面影を残す。



東本願寺茨木別院

恩師の英語の先生の葬儀が、ここの本堂で営まれた。その一部始終を書いたのが『師の棺を肩に』。

虎谷誠々堂書店

中学時代の康成が通いつめた本屋。現在建物は建て替えられ、店舗も移転し、店は事務所のみとなっているが、昔の看板は入口上部に掛けられている。

茨木駅

祖父が亡くなったあと、吹田の親戚に引き取られた康成は、半年間、吹田－茨木間を汽車通学した。

「川端康成青春文学賞」を創設！

茨木市では、市制施行70周年を記念して、「川端康成青春文学賞」を創設した。2018年2月から6月まで作品を募集し、応募総数は134篇。特に30歳以下の若い世代の応募が目立った。小説家の羽田圭介さん、津村記久子さん、映画『葬式の名人』の脚本家・大野裕之さんによる選考を経て、2018年11月に受賞作が発表される。

リアルな青春をたっぷり！

茨木市立 川端康成文学館

宿久庄（しゅくのしょう）の屋敷の模型や、旧制茨木中学校時代の写真、書簡など、文豪の青春時代を偲ばせる貴重な資料がいっぱい。高橋照美館長は、「茨木を舞台にした作品集『川端康成と茨木』も好評です」。●上中条2-11-25 ☎072-625-5978 9:00〜17:00 火曜＆祝日の翌日、年末年始休

フジファブリック 山内総一郎さん（Vo、G）

「音楽と人生を教えてくれた茨木に恩返しをしたい」。

6月にリリースした『手紙』のミュージックビデオには、なにげない茨木の風景がずっと映し出されている。

「故郷について書いた曲なので、茨木をうろうろしながらスマートフォンで撮りました。昔住んでた場所とか、通学路とか。だれにでも故郷の風景はあると思うのですが、そこを思う気持ちが蘇る映像になればいいなと思って」。

茨木で生まれ育った山内さんは、音楽を通じて知り合った友や師への想いを、この曲に込めた。

「中学でバンドを始めて、高校に入ってからは、阪急茨木市駅前の『Dスタジオ』や横江の『JACK LION』で練習をして、自分たちの曲をつくりはじめました。出会いや別れがあり、人生や音楽のすべてを茨木でもらったと言っても過言ではないです」。

高校生のときには、もう音楽の世界で生きていくと決めていたという山内さんが、毎日のように入り浸ったのが、「びっくりギターズ」という楽器店だ。

「店員さんがボクらみたいな子どもでも分け隔てなく接してくれて。ギターについてたくさん聞いたし、店にあるギターは全部弾かせてもらったんじゃないかな」。

茨木は本当に音楽が好きな人が多いという山内さん。いろんな場所でさまざまな音楽にふれてきた。

「『JK茨木』でジャズやフュージョンを知ったり、ライブハウスにもよく行きました。茨木の子はみんな合唱大会で大きな舞台に立ったりするんですけど（笑）。いつか茨木でライブをやってみたい」。

2019年は初めての大阪城ホールでのライブが決まり、それを無事終えたら茨木で、と思いは広がる。

「今から音楽をやろうとしている若い人たちに見てもらいたい。ちゃんといい曲を書いて、それを引っさげて茨木で歌いたい。茨木の音楽の先輩たちには、すごく教えをいただいたんで、自分も子どもたちがいい環境で音楽ができるよう、なにかができたらいいなと思います」。

山内総一郎

1981年茨木市生まれ。茨木西中時代にギターを始め、10代は茨木市内でバンド活動をする。20歳で上京し、2004年からフジファブリックに加入。10月3日にミニアルバム『FAB FIVE』をリリース。2019年はバンド結成15周年を迎え、同年10月20日には大阪城ホールでのライブ開催が決定！

今いちばん 音楽が熱い街。♪

茨木は、春の茨木音楽祭、秋の麦音フェストなど音楽が盛ん。茨木市出身で、人気バンド「フジファブリック」のボーカル＆ギター・山内総一郎さんのインタビューと、ライブスポット情報を紹介。

ジャズとフュージョンの聖地。

JK茨木

駅前から見えるサインを目印に階段を降りると、ステージもある広い店内に驚く。かっこいいバーカウンターは女性客、一人客に人気で、深夜営業しているのもうれしい。極上のモルトウィスキーをぜひ。福永店長は10年続く茨木音楽祭を支える中心人物だ。●双葉町2-25 ☎072-638-3914 18:00〜翌3:00 無休

若者を応援し続けて23年。

JACK LION

若い時に経験した震え上がる音楽体験を若者に味わってほしいと駅前の楽器店をたたみライブハウス・楽器店・貸スタジオの複合店をつくる。若者を応援し続けて23年。真柴社長は音楽の街・茨木の育ての親だ。●横江2-20-25 ☎072-630-0987 13:00〜翌2:00 無休

そのほかの茨木のライブスポット

歌手兼調理師が店主の店
チェンノガット
●中総持寺町14-18
☎072-637-4568

穏やかなカフェで心緩むライブ
café なかちよ
●松ケ本町3-16
バーデンズクラブ
☎072-624-1980

音楽一家経営のロックカフェ
Mariana CAFÉ
●末広町3-33 末広ビル3F
☎072-657-8899

昭和がモチーフ 大人のライブバー
ACOUSTIC LIVE BAR 時代屋
●春日1-13-31
☎080-3536-0459

個性的な隠れ家ライブバー
Live music & bar Vaughan
●駅前4-1-2 5F
☎072-622-1680

音酒食喫に酔う ゆるり夜の集い場
Acoustic Live Bar D bar
●双葉町9-13 3F
☎080-6741-4122

アートな茨木、更新中。

いちばん新しい茨木のアートを美術家が案内！

稲垣元則さん
1971年京都市生まれ。中学時に移り住んで以来、茨木市で美術活動を続ける。One Art Projectの一員として、SOUなどプロジェクト活動にも多数関わり、今回、茨木アートを案内してもらった。

「茨木市では、積極的にアートを活用したまちづくりを進めていて、『HUB-IBARAKI ART PROJECT』を毎年実施するなど、公共施設とアートとのコラボが増えましたね」と稲垣さん。

2018年3月に開業したJR総持寺駅では、稲垣さん監修のもと「作品を撮影し」、2・6mの高さの空間に、拡大したプリントを展示するアートプロジェクト「SOU」を展開。日常の生活にアートがさりげなく溶け込んで、より身近になっている。

松田啓佑さんの『UNTITLED』。油彩のオリジナルをスキャンして展示。

新しい駅の空間をアートでつなぐ。

SOU

つくる（創）、集まる（総）、めぐりあう（遭）ようにと名づけられた「SOU」。JR総持寺駅では半年ごとの作品入れ替えを予定していて、今回紹介している作品は、2018年9月に入れ替えを行う前のもの。

星を見た帰りに、ちょっとアートでも。

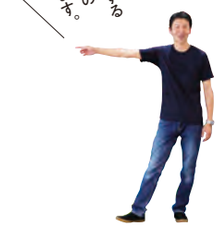
茨木市役所合同庁舎7階 プラネタリウム・エントランス

2016年度の「HUB-IBARAKI ART PROJECT」に選ばれた中島麦さんの作品「WM」が壁に描かれている。この作品は他にも市役所本館・南館などで展開。●東中条町2-13　☎072-622-6229

8mのドーム径を持つ投影機で映し出されるプラネタリウム。大人100円で鑑賞できるのはうれしい。

巻頭の「イバイチ！8景」で紹介した「サン・チャイルド」のヤノベケンジさんは、茨木市出身。2019年の1月までパリのルーブル美術館で特別展示をしている名和晃平さんは茨木高校の卒業生と、世界的に活躍しているアーティストである二人は、茨木とゆかりが深い。

「二人の作品が、市内のパブリック・スペースに常設されていて、いつでもふれることができるのは、市民にとってはうれしいことですね」と稲垣さん。



名和晃平さんの作品に隣接する東中条東公園には他のアート作品も設置。（右）岩村俊秀さん『はじまり－Deep Forest』。（左）中西學さん『共生／GOLD CIRCLE』。

母校の前に佇む、名和晃平作品。

Trans-Ren（トランス レン）（Bump,White（バンプ、ホワイト））

名和晃平さんの母校の前を通る桜通りに面する公園に2013年に設置された作品。茨木の象徴的存在「茨木童子」からインスピレーションを受け制作、作品の視線の先には茨木高校美術部部室が。

名和晃平さんも通ったという「ミヤザキ アトリエ」は、現代表である宮崎洋子さんの父・万平さんが約50年前に創始。関西の芸術・美術大学へ年間のべ200人の合格者を出していた時代もあった。

「私も「ミヤザキ アトリエ」で学んでいたのですが、そのときの先生にヤノベケンジさんがいました。茨木市でアートに関わる人で、通った人も多いです」と稲垣さん。

「アズーアートラボラトリー」も、学校教育の枠を超えたユニークな教育を行っている。

半世紀続く美術学校。

ミヤザキ アトリエ

洋子さんは、「美術家でもあった父は、本当に絵を描くことが好きで人を引き寄せるチカラがありました」と。今も5階建ての校舎に、美術、音楽、洋裁を習いに、幼児から年輩の方まで多くの人が集まる。「自分のための芸術を楽しむ。それに貢献できたらうれしいですね」。●舟木町9-15　☎072-633-6424　月曜・祝日休館

「今では描く人が少なくなりましたけど、石膏像のデッサンで基礎がつきます」と洋子さん。専門家コースから趣味のコースまで、教室は幅広く開かれている。『子ども美術展』などイベントも開催。

ユニークな発想で美術を教える。

アズー アート ラボラトリー

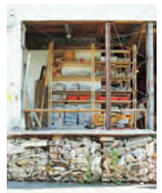
美術家でありデザイナーである中澤てるゆきさんが主宰。「将来海外に出る機会がある子どもたちが、共通言語としてアートの話ができるようになってくれれば」と、視点や発想の転換、要素をミックスして編集できる練習など、従来の日本の学校教育ではなかなかできないような授業を展開している。●上中条2-8-32　☎072-620-0550（オレンジアゴーゴー）

教室は、5歳～12歳（60分）、中高生（90分）、一般（2時間）を隔週で。子どもたちがいつでも閲覧できるよう、画集は無造作に床に置かれている。完全防音の地下スタジオがあり、専門講師によるボイストレーニングも実施。茨木阪急本通商店街中の「オレンジアゴーゴー」は姉妹校。

解体プロジェクトは
文化住宅を愛するがゆえ。

前田文化

「おじいちゃんが所有していた文化住宅を、駐車場にでもするかという話が出た時、この中津町でこの風景を残さなあかんと思って」と前田さん。解体を進めつつ、住むこと、生きることについて考える。●中津町21-4　www.maedabunka.com



2階には現在も2世帯が生活中。ここまで解体してきた1階だが、地震被害に遭い、補修と補強のプロジェクトを実施し、土台を固めてから再び解体を行う予定。

壁を壊すのには、お相撲さんのツッパリでと、元力士の芸人を呼んだことも。

Chihiro Kihara

劇団子供鉅人が、芝居をしながら解体していくという前代未聞の試みも。

Chihiro Kihara

『騒音コンサート＆解体工房』では、解体工事の騒音と音楽家・野村誠と日本センチュリー交響楽団員の演奏を。

枠にはまらない
異色の活動も
おもしろい。

稲垣さんが今、注目しているのが［前田文化］。文化住宅を解体していく中で、さまざまなイベントを不定期で開催するプロジェクトだ。

「代表の前田裕紀くんの発想がおもしろい。これから何をやるか、楽しみです」。

また、茨木を代表するアートスポットとして、これまで多くのアーティストを紹介してきたギャラリー［GLAN FABRIQUE］が、少し模様替え。

「アートの展示だけではなく、いろいろなユニークなイベントも開催する多目的なスペースに生まれ変わりました」と稲垣さん。

北摂随一の文化拠点が、
より多彩なスペースに。

GLAN FABRIQUE（グラン ファブリック）

オープン15年を迎え、大きく方向転換。「よりクリエイティブに、よりパブリックに、よりユニークに」と主宰の河上友信さん。さまざまな文化事業にも関わる氏だけに、地域と密着した試みも増えそう。●駅前1-8-28　http://glanfabrique.com

ギャラリー［la galerie］では、新進気鋭のアーティストを不定期で紹介する。

築100年超の木造邸宅をリノベーション。1階はアートギャラリー［la galerie］とスペース［cafe百花］。2階は河上氏が主宰の［河上友信空間設計事務所］。

［cafe百花］は、よりパブリックな空間として、クリエイティブな発信力を高めていく。

青柳美扇さん
1990年茨木市生まれ。祖母の影響で幼少の頃から習字を始め、梅花女子大学書道部在籍中にはパフォーマンスが注目され、卒業後は全国や海外で、幅広く活躍中。

筆が生み出すアートを極めて。

書道家・青柳美扇さん、茨木から世界へ！

日本の伝統と革新を融合するアーティスト。

「インスタのフォロワーは9万人になりました」。

茨木で生まれ育った青柳美扇（びせん）さんは、大学の頃から書道パフォーマンスを始め、甲冑スタイルなどが注目される書道家。SNSを駆使するいまどきのポップな雰囲気をまといながら、内に秘めた強い意志が印象的だ。

「大学を卒業して2、3年は、どうしていいのかわからず、しんどかった時期もありました。でも時間と気合いだけはあったので、いろんな人のところへアポなしで行ったり、恥ずかしげもなく夢を語ってたりすると、それが叶うようになって」。

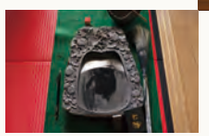
美扇さんのバイタリティや願いは、世界中の人たちの心に響き、仕事の依頼が届くようになった。

「私のユーチューブを見たシアトルのワシントン大学から直接『うちでパフォーマンスしてほしい』と依頼があったり、こないだはインドネシアで書道のワークショップをしてきました」。

書の枠にとどまらず、映像とコラボしたり、空間をプロデュースをしたり、活躍の場をどんどん広げている美扇さん。活動拠点を移すことも考えているのでは？

「交通の便がよくて、住みやすくて、人があったかい。そんな茨木を離れるつもりはありませんね」。

初心を忘れないようにと、毎日さまざまな書体を書き写す「臨書」を行っている美扇さん。



（右）書の世界にはない“色”を描きたくて、1年前から始めたアクリル画。（下）重厚な硯は、中国の骨董屋で一目惚れして購入。重さは23kgも！

（右上）企業の金屏風へ作品を提供することも。（左下）甲冑パフォーマンス。このほか茨木では、子ども向けワークショップや70周年記念式典でパフォーマンスをするなど、地元に根づいた活動も多数。

いばきたの いちばん 気持ちいい 人々。

修験者の山に抱かれた北部地域、通称いばきた。市街地からクルマを約20分走らせると、自然の中で生活をする多くの笑顔に出会える。

ぱかぽこひろば

千原一宏（左）・裕子（右）さん

馬と遊ぶ癒しの空間

「子どもが自然の中で馬と過ごす楽しい場を作りたい」と元保育士の裕子さん。馬に乗る前に、おやつをあげたりブラッシングしたりとコミュニケーションをたっぷりとることを大切にしている。単なる乗馬体験ではなく、馬と遊んで仲良しになる茨木の楽園。

●上音羽178　☎070-5262-3753　10:00～日没　月～金曜休（祝日は営業　平日も予約すれば可　未就学児も可能　貸切可能）

清阪 terrace

横峯哲也さん

しなやかな革命農家

バンドマン、豊中の有名料理店の料理人、農業ベンチャーを経て、清阪で循環型農園を営む。箕面ビールの麦粕、パプアニューギニア海産の海老殻、山口納豆・和田萬の胡麻などすべて茨木や界隈の企業の廃棄資材を飼料にして養鶏。滋味満載の卵を採り、鶏糞で野菜を育てる循環型農園。横峯さんの柔軟でしなやかな生き方に新しさを感じて、畑や鶏舎建設の手伝いやその見学にたくさんの人が茨木と京都の境目・清阪まで足を運ぶ。

一般的な平飼いの3倍の広さでゆったり育った鶏の卵は濃厚な味わい。「有機野菜のおおぞら」、「自然食品はっこうふうず」で販売。

一夢想

塩田邦夫（中）・美穂子（右）・小百合（左）さん

8割がリピーターの店

見山の郷の喫茶部門を2年務めた後、6代続いた古民家を活かそうと店を始め14年。自家製の米と旬の野菜を使った、季節感あふれる上品な田舎料理が味わえる。手づくりのすくい豆腐とごま豆腐が評判。

●上音羽478　☎072-649-3025　11:30～15:00　火曜・年末年始・盆休　1日3組限定、要予約。春の旬菜、5月の筍つくし、冬の鍋が人気。

見山の郷　交流施設組合

原田忠節さんとパンチームのみなさん

パンで田んぼを守りたい

地元の田畑が消えていくのは悲しい、米離れを止める一助にと研究を重ねベストな配合にたどりついた米粉パンは、素朴ながら味わい深く、もっちりだとファンが多い。夏はバジルとトマト、秋はサツマイモと旬の野菜を余すところなく使った食パンも人気。

見山産の米粉食パン

●長谷1131　☎072-649-3328　9:00～17:00（11月～2月は～16:00）　火曜休　米粉食パン280円～、自家製ジェラード200円、山野草天ぷらそば500円、各種弁当あり。

チキチキファーム

伊東充志（右）・愛（左）さん

農業はロマン！ロマン！

デザイン会社を辞め、軽バンで1年かけた日本一周の旅のあと、自然の中で暮らしたい思いが募り「農薬かけず愛情かけて」をキャッチコピーにした多品種の野菜を作るように。畑仕事が軌道に乗ったところでデザイナーの仕事も再開。茨木の酒屋が見山産を広めようと企画した人気商品「赤紫蘇サイダー」のしそも生産しつつラベルのデザインも手がけている。週に一度は「見山の郷」の店長も務めるマルチな才能をもつ農家だ。

販売（毎週水曜）ファミリーマート茨木大池一丁目店前（以下、収量で出荷がないときもあり）見山の郷、みしま館、関西スーパー三島丘店など。

雨蛙菜園

兒玉重成（左）・シャオホン ルー（右）さん

日曜は菜園で珈琲でも

好きなことだけで暮らすと決めて脱サラして8年。小高い丘にある自然農の畑を耕し、手作りの鶏舎で烏骨鶏や南米原産種のアローカナも育てている。餌は地元産の米や自ら育てた野菜など安全でヘルシー。栄養満点の新鮮な卵を毎週日曜に販売している。

栄養満点の希少卵

●銭原440　☎090-2048-4333　7:00～15:00　日曜のみ営業　週1個しか産まない烏骨鶏卵は要予約。来園者にはふるまい珈琲を。

忍頂寺スポーツ公園

牛島哲さん

経験豊富な頼れる兄貴

大手スポーツクラブ勤務経験やトライアスロンに数多く出場した経験から、サイクリストやアスリートにやさしくて知識豊富と評判。山歩きや野外活動を楽しむ方々に喜ばれる拠点としての機能やサービスを熱く企画中。

●忍頂寺1049　☎072-649-4402　7:00～19:00　12／29～1／4休　無料休憩ラウンジ、食堂・喫茶、宿泊施設、ドッグラン、子ども遊具などあり。安威川ダムカレー900円。

千提寺farm

中井大介（右）・優紀（左）さん

日本唯一の三島独活（うど）農家

自然の摂理を活かした伝統農法で作られる幻の高級食材「三島独活」。最後の栽培農家さんから技術を継承するために脱サラ。理系で冷静な大介さんと天然系で周囲を巻き込む力が抜群の優紀さん夫婦の最強タッグで、いばきた地域の生産者や就農希望者を紡ぐほか、里山を使って感性を育む遊び場を作る活動を立ち上げるなど、独活のファンはもちろん、中井家のファンの輪が全国に拡がりはじめている。

独活は公式サイトで購入可。もともと希少で有名料亭などにも卸すため早めの予約を。農園を支援する独活株主制度あり。

安威川上流漁業協同組合

角野一雄さん

生まれ変われる場づくり

街の賑わいから近い、いばきた地域の利便性を活かして、子どもには命の大切さやつながりを、年配の方には憩いを気軽に感じることができる環境をつくることが目標と角野さんは静かに語る。釣り場の管理と魚の放流だけでなく、権内水路や渓流を使った川遊び体験をサポート。魚を通じた食育体験「つかみ捕り＆塩焼き大会」のノウハウも開発し、近隣の祭りへ出張運営なども行っている。

●車作1333-4　☎072-649-3636 入漁券販売（ニジマス・アマゴ　期間指定あり）貸し竿　BBQ可能

Cafeらん

若林公美（右）・美行（左）さん

おかんただいま！

生まれ育った美しい木造の旧家で、当時の大家族を思い出しながら、小鉢がたくさん並ぶ地野菜料理を提供する公美さん。「大阪府ヘルシーメニューコンテスト」で優秀賞を取るおかんの味わいと懐かしい雰囲気は実家に帰ってきた気分に。

●忍頂寺164-5　☎072-665-7839 11:00～15:00　火・水曜休（2・3月は土・日曜のみ営業）事前に予約がベター。

里山センター

齊藤哲実さん

山村育ちの経験活かす

宮崎出身、仕事の関係で十数回転勤し、日本中を巡ってきた齊藤さんが終の棲家に選んだのが茨木。退職後に参加した里山保全活動がいつしかライフワークに。山村での原体験をもとに、街育ちの子どもたちや親御さんに木工の楽しさや昔ながらの生きる知恵を「里山センター」で伝えている。また、月の半分は里山に入り樹木の手入れや伐採した木をセンターで製材して資源化する活動も行っている。

●泉原20-2　☎072-646-7531　9:00～17:00　火曜休　自然工作教室や家族で楽しめるイベントなど定期的に開催。

デイサービス双子家

柳本秀史（左）・愛子（右）さん

トトロの森で介護

映画『となりのトトロ』に出てきそうな田んぼと森が広がる茨木最北端・銭原。そのいちばん奥に「デイサービス双子家」のある元農家の家がぽつん。かつて秀史さんは石窯ピザ店、双子のお母様たちは季節料理店をこの家で経営し人気だったので、通所者が収穫した野菜と地野菜をたっぷり使ったおいしい料理が自慢。のどかな農村を散歩し日当たり良い縁側でうたた寝する。都市部のデイサービスにはない、環境と時間がそこにはある。

●銭原598　☎072-649-3718　9:00～17:00　土・日曜・祝休　認知症対応型通所介護施設。

夢が花開いた古民家カフェ

夢咲茶屋

実家近くの大きな旧家を活用するために、オーナーが夢だったカフェを開業。家族やお客様の協力で懐かしく温かい空間ができあがった。

●銭原916　☎072-649-3087　10:00～16:00 不定休（ブログに掲載）

隠れキリシタンの里に、想いを寄せて。

茨木市立キリシタン遺物史料館

東満理亜（中）・中谷早苗（右）・中谷千恵子（左）さん

隠れキリシタン末裔の東家、中谷家が案内役を務める遺物史料館。狭い山道を上ったところにひっそりある。満里亜さん、早苗さんともに嫁いで初めてキリシタン末裔の家と知り、亡父の案内を手伝いながら仕事を覚えた。独学で宗教学を学ぶ研究肌の満里亜さんと人好きで話が楽しい早苗さんの好対照な名ガイドとお２人の良さを引き継いだそれぞれの義娘の４名で、歴史の裏に流れる人間ドラマや秘話を語る。

●千提寺262　☎072-649-3443　9:30～17:00　火曜休　より当時の想いにふれることができるDVDは必見。遺物発見の経緯や最後の隠れキリシタンである3人の老女の話は驚きの連続。

千提寺の民家に伝えられた絵画『マリア十五玄義図』

教科書でおなじみの『聖フランシスコ・ザビエル像』（P10）は、千提寺地区、遺物史料館隣の東家から発見された。その複製を展示。その他、千提寺・下音羽地区で発見された遺物も数多く展示している。

キリシタンの里でカフェを営む人たち。

まだま村

立花栄子（右）・直子（左）さん

これからは縄文文化だ

縄文時代に先進性を感じ、その良さを講演して回る店主・立花之則さんが、竪穴式住居をモチーフにしたセミナーハウスまだま村を作って 28 年（カフェは 22 年）。店主と共に伝統的な調理法を研究し、縄文ランチを開発した栄子さん、音楽療法士の直子さんたちが作り出す独特な空間は、県外や外国からわざわざ訪問する人がいるほどの人気のスポット。

●千提寺428　☎072-649-3800　11:00～16:00（土・日曜は～17:00）　月・火曜休　縄文ランチは要予約。週末は予約がベター。

THE FOREST OF ARTS M's cafe

百合ふつみ（右）・真梨奈（左）さん

細い山道の先に

大きな古民家の中にあっと驚くアート空間。建築家とアーチストである家族全員で、一年かけて遊び心とセンス溢れるアンティークやアートを配して手作りした。ふつみさんによるジャズやソウルの心躍る選曲がカフェにぴったり。

●千提寺249　☎072-649-4308　11:00～17:00　月～金曜休（祝日は営業）

茨木でいちばん新しい大学の学生が、わが街を案内。

2015年に開設した立命館大学 大阪いばらきキャンパス。「Syumirun!(しゅみるん)」は、「茨木を学生の街にする」をテーマにWEBメディアの運営やフリーペーパーを発行するこの大学の学生団体。彼らが日頃行き交う大学周りのマップを、学生目線でつくってもらった。地図・文・写真・マップデザイン、すべて学生オリジナル！

立命館大学
大阪いばらきキャンパス
●岩倉町2-150
☎072-665-2020

OICの魅力①
キャンパスが広い

OICの魅力②
公園がとなり！

OICの魅力③
開放的な食堂

イオンモール

立命館大学
大阪いばらきキャンパス(OIC) R

イオンとOICを繋ぐ地下道の入り口がある。めちゃ便利。

大阪いばらきキャンパス（OIC）
立命館大学の新キャンパス。
中にスタバもあるんですよ。

OICまでの専用歩道があり、自転車などは通行禁止、歩道でスーツケースを転がして運ぶと物凄い音が鳴り響く。

駅ナカにお店が並んでおり世界一と言えるほど接客に勢いのある店員さんが迎えてくれる。

JR茨木駅
西口
東口

ここはいばらきスカイパレットと言い、たまにイベントが行われます。

139

春日商店街に続く歩道橋がめちゃめちゃに渋い。

①KIZUNA 絆

学生が愛してやまない定食屋さん「絆」リーズナブルな値段で母の味を楽しむことができます！毎日メニューが代わり違う味を楽しむことができます。
おすすめメニューはBigメンチカツです！

西中条町7-21
11:30～22:00
休 土日祝
090-1594-8986

②Remake & Cafe 居酒屋 KIKI nankurulife

駅前で絶品沖縄そばが楽しめるこのお店の人気メニューは「KIKIライス」。癖になる美味しさなんです。南国の空気感あふれる店内にはジーンズのリメイク服や雑貨が置かれ、いろいろ楽しめるお店です。

西中条町5-20 1F
月・水・木 11:30～22:00(L.O.)
金～日 18:00～21:00
休 火曜日
072-609-7008

③とりとっとー

焼き鳥とピリ辛こんにゃくのセットや、とり丼とじゃがバターのセットが980円で食べられちゃうんです！お店のオススメ枝豆チーズ春巻きは中からチーズがトロ～り。

西中条町3-41
Lunch 11:30～14:00
Dinner 17:00～23:30
休 木曜日
050-3494-6294

④Cafe & Bar frodo

お肉がメイン。お野菜もできるだけ沢山。そしてお手頃なお値段。ちらっと覗くと中の雰囲気が可愛いカウンターがあるお店です。メニューも、セットメニューからアラカルト、一人用鍋まで、豊富ですよ。

西中条町3-41 105
Lunch 11:00～16:00
Dinner 18:00～22:00
休 日曜日の夜・月曜日
050-3551-9889

⑤巡りごはん いろは

健康に気を使ったお食事が楽しめるJR茨木駅前のお店。薬膳粥のお膳が楽しめます。店内には漢方がずらりと並び、可愛いパンダのいろは°ちゃんが店内でお出迎え。

駅前1-3-9生田ビル 2F
Lunch 11:00～14:00
Cafe 14:00～16:00
Dinner 木・金曜日のみの予約制 18:00～20:00 L.O 19:30
休 不定休
072-648-5950

いろは°ちゃん

⑥セルベセリア ハポロコ

茨木市民が愛するスペインバル「ハポロコ」粋な店内で美味しいお酒を飲みながら店員さんと話す時間はお酒好きにはたまらない場所です。しっぽり飲みに行くのも良し。打ち上げにも良し。学生専用のプランなどもありますよ！

駅前1-4-6
18:00～26:00
休 日曜日
072-646-9292

⑦中華料理 天山

JR茨木駅から徒歩5分にある「天山」となりの人間国宝さんに認定されたお店なんですよ～！ユニークで心優しい店長が出迎えてくれます！料理はどれもボリューミーで絶品！居心地の良さも天下一品！

春日1-9-4
Lunch 11:00～14:00
Dinner 17:00～22:00
休 日曜日
072-625-5536

⑧太陽とごはん

地元のママたちに愛されるお店「太陽とごはん」お店のネーミングセンスはピカイチです！店の中には絵本があったり、簡単な遊具があったり子供も楽しめて、ママさんたちもたくさんしゃべってリラックスできるとてもいい空間です。

春日1-9-28
10:00～16:30
(L.O.16:00)
休 土日祝
072-646-9890

学生たちのわが大学・街のいちばん自慢。

茨木には、特色のある6つの大学があります。学校や周辺スポットの自慢をピックアップしました。

2018年1月にアメリカで行われたチアリーディング世界大会で部門1位を獲得！ しかもチアリーダー部から2人が日本代表に選ばれているという強豪。

ガンバ大阪のスタジアムで、通路から観客席へお客さんを案内。学生が一丸となり、常に試行錯誤しながら最善の案内方法を見出そうと努力している。

来春には新キャンパスが誕生！

追手門学院創立130周年の記念事業の一環として、2019年春には新キャンパスが完成する追手門学院大学。伝統にとらわれず、新しい教育に挑戦し続ける追手門学院の勢いから目が離せない。

中でも他にはない独自の取組みと言えるのが、J1ガンバ大阪でのインターンシップだ。これは2016年の新スタジアム開場の時に始まったもので、学生がインターンとして参加する規模はJリーグの中でも随一。約40人の学生が「日本一のおもてなし」を目標に掲げ、来場客のチケット確認や案内を行っている。立ち位置や動線なども、学生によって提案されているというから頼もしいものだ。

市東部で進んでいる「茨木スマートコミュニティプロジェクト」の一環でもある新キャンパス計画。地域創造学部と国際教養学部、全学部1年生の初年時教育の拠点として使用される。

常に改革が進んでいて、大学に通うのが楽しい！

経営学部 マーケティング学科3年 改井孝太朗（かい）さん

追手門学院大学

●西安威2-1-15
☎072-641-9608（総務課）
https://www.otemon.ac.jp/index.html

かの鎌足公が眠る場所？

将軍塚古墳・将軍山古墳

住宅街を歩くと「大織冠（たいしょうかん）神社」と彫られた石碑が。階段を登ると横穴式の石室が鎮座する。将軍塚古墳は、大化の改新で知られる藤原鎌足公の墓と言い伝えられてきた。その左手には、追手門学院大学の学園祭「将軍山祭」の由来となった将軍山古墳もある。

●西安威2

チアリーディング部「レイダース」は日本トップクラスの実力。日本はもちろん海外の選手権でも常に好順位につけている。

Shota Lee Big Bandとコラボし、今年8月に上演した「私は、作曲家コール・ポーターの妻～リンダ・リー・トーマスの物語～」の様子。

4人1組、計3チームがコートに入り、直径1.2mのボールを使い競技する「キンボール」。今年は3人の選手が日本代表候補に！

梅花女子大学は創立140年。日本屈指の歴史を持ちます。

モットーはチャレンジ&エレガンス。

様々な問題に果敢に立ち向かうチャレンジ精神と、品性と思いやりあるエレガンスを兼ね備えた女性の育成をめざす梅花女子大学。モットーを体現する存在として、2016年には梅花歌劇団「劇団この花」（芸術監督 謝 珠栄氏）が誕生。地域の文化や芸術の振興に寄与し、現代演劇に貢献することを目的として活動している。2019年夏にはオリジナルミュージカル「マザー・テレサ」を上演予定。

文化表現学部 国際英語学科2年 松井安奈さん

梅花女子大学

●宿久庄2-19-5
☎072-643-6221（代表）
http://www.baika.ac.jp

男女混合の車椅子ハンドボールサークル「TOPS」。車椅子ハンドボールは、性別・年齢・障がいの有無に関わらず、障がい者と健常者が同じフィールドで競技する共生型スポーツの1つ。

日替わり定食260円。メニューが豊富でリーズナブルな学食「ALBUS（アルバス）」は学生に大人気。

TOPS2017年キャプテンの歴舎望さん。この年に開催された大阪大会では初優勝を遂げた。

約8500人の医療人を社会へ！

学校法人 藍野大学は、前身となる藍野病院附属准看護学院時代から50年にわたり医療人を養成してきた。課外活動でも、医療系の大学ならではの車椅子ハンドボールサークルがあり、2017年には全国大会で3位に輝いた。地域の小・中学校で車椅子ハンドボールを体験したいという希望や、障がいがある方からの見学の申し込みなど、地域の人たちとの交流も増えてきている。

大学での学びとTOPSでの経験を、将来に活かしたい！

医療保健学部 作業療法学科3年 歴舎（れきしゃ）望（のぞ）さん

藍野大学

●東太田4-5-4
☎072-627-1711（代表）
http://univ.aino.ac.jp

身体機能実験室。天井からカメラが吊るされていて、全方向から撮影して三次元で動作解析をすることができる。

水治療実習室。プールを使ったリハビリは需要が多いので、即戦力としての技術を磨くことができる。

大学としては珍しい設備も。

大阪行岡医療大学は、リハビリテーションに特化した単科大学。授業内容はもちろん充実した設備が特徴で、本格的なプールを備える水治療実習室やスポーツチームも利用する身体機能実験室など、他大学では見られないものも多い。毎年の定員が約80名と少人数で、かつ全員のめざす方向が一緒なので、学生同士、学生と教員のチームワークが良いのだとか。

困っている人の手助けができることに喜びを感じます。

医療学部 理学療法学科3年 根釜夢乃（ねがま ゆめの）さん

大阪行岡医療大学

●総持寺1-1-41
☎072-621-0881（代表）
http://www.yukioka-u.ac.jp

メディアの掲載も多数。

釜あげうどん太郎

大学から近く、市外からのお客さんも多い名店。特徴的なのは麺を圧力釜で茹でることで、表面はつるっとしなやかで、中心にしっかりとした噛み応えを残す。●三島町1-8 ☎072-627-1077 11:00～15:00、17:30～19:30（土は昼営業のみ） 日祝休

こんな「いちばん」もあります！ 知らなかった？ 奥深き茨木。

歴史があり、文化があり、気持ちいい人も多い茨木。こんな茨木もあるのかという、さまざまな人とエピソード、スポットなどを地元レポーターがユニークな視点で案内。

果実酒のラインアップはいちばん！

左から「ミント・ローズマリー・サンショウ」「レモン・すもも」「パイナップル・キウイ」。

カウンターに並ぶ果実酒は常時30種。スタンダードなものから、どくだみやコーヒー豆を使った変わりダネのラインアップに心踊る。多くの種類を楽しみたいなら飲み比べのセットがおすすめ（3種1000円）。

手作り果実酒のお店 時優区

●下中条町4-15
☎072-646-5263
14:00～23:45
（日曜は～20:00）
月曜休

美容室密集度はピカイチ。

JR茨木駅周辺を歩いているとよく美容室が目に入る。40年この地で美容室を営む「クープ・シゾー」の森田オーナーによると「茨木駅から徒歩10分圏内に30軒ほどあります」とのこと。

ハイソサエティ

●若園町36-2 グランビスタⅡ 1F
☎080-3811-1166
10:00～18:00
日曜・祝休

日本初（？）の八百屋カフェ。

店頭に青果がふんだんに並ぶ不思議なカフェ。近隣で青果店を営むオーナーが「新鮮な青果を多くの人に楽しんでもらいたい」との思いからオープンさせた。フレッシュジュースをはじめ、茶そばサラダランチなどメニューも充実。

青果店直送の野菜が並ぶ。店内ではベビーマッサージなどのイベントも定期的に開催。

日本でいちばん初めにできた学校プール。

旧制茨木中学校（現茨木高等学校）の学生が（なんと川端康成も）、体育の時間中に運動場を手作業で掘った、日本で最初にできた学校プール。当時は清流だった茨木川から水を引いて大正5年（1916）に完成。茨木の各小学校が水泳に力を入れる伝統は、ここから始まった!?

ここのプールがオリンピック選手や監督をたくさん生み出し、近代水泳先駆けの地となった。

いちばんシチリアを愛するレストラン。

シチリア菓子といえばカンノーロ。サクサク生地に濃厚なリコッタチーズ。

ボリューム満点のコース。前菜の鮪の生ハムとカラスミはもちろん自家製。コースは昼3,800円、夜6,000円。

オーナーシェフ・檜森（ひのもり）誠太郎さんは、旅先で出会ったシチリア料理に衝撃を受けて、島中をめぐり、家庭料理やシチリアの伝統料理を学んだ。現地の食卓の空気感まで伝えたいという情熱家。夏は海（魚料理）、冬は山（肉料理）のシチリア料理が楽しめる。

IL PISTACCHIO da Saro

●西中条町2-12 ☎072-657-8733
12:00～15:00 18:30～23:00
月曜＆火曜昼休 完全予約制

茨木でいちばん元気なオーナー。

オーナーの在田さんは、夢を持ち家族を大切にする元気な従業員を採用して、いっしょに店を盛り上げながら日本を元気にしようと奮闘中。在田さんの「こんにちは！」に元気をもらえるという常連さんで、いつもお店はいっぱい。

Cafe ぶいえいと

●西中条町1-1
☎072-625-9526
7:00～22:00
無休

オランダにいちばん近いカフェ。

オーナーの藤田さんは食べるのが大好き。オランダ航空に勤めていた時に、初めて食べたオランダパンケーキ「パンネクーケン」を提供するオランダカフェをはじめる。シュガーシロップをかけていただくオランダゴーダチーズ入りパンネクーケンは昼飲みのアテとしておすすめ。

カフェレカ

●元町1-23
☎072-601-0219
11:30～17:30
（金・土曜は～21:00）
月・火曜・祝休

北摂で唯一の中央市場。

類以上の品を取り扱う北摂の台所。日常の買い物はできないが、市場見学会や市場開放デーなど、一般客でも利用できるイベントが定期的に開催されるのでホームページをチェック！

甲子園球場約5個分という広大な敷地の中で、青果・水産物など20万種

大阪府中央卸売市場
●宮島1-1-1
☎072-636-2001
http://osakafu-ichiba.jp

大阪で初めてのゴルフ場。

大正14年（1925）開場。日本で最も伝統ある日本プロ選手権の最初の開催地となり、スタープレーヤーを多数輩出。そんな日本有数の名門コースが茨木の街中にあるのはすごい。一般参加できる大会も年4回開催されている。

茨木カンツリー倶楽部
●中穂積25
☎072-625-1661
会員制

第2回東西婦人対抗両軍選手権。女子ゴルフも戦前から活発だった。

いちばんおみやげにしたいプリン。

なめらかな食感と濃い旨みで人気のうっふぷりんが、茨木の市制施行70周年を記念して「うっふぷりん 次」を発売。通常の4倍の卵黄を使い、プチプチとした食感でライチの香り漂うフルーツボールをトッピング。茨木のおみやげにいかが？

うっふぷりん 茨木本店
●永代町7-27
☎072-621-4770
11:00〜19:00　無休

茨木でいちばん昭和チックな喫茶店。

パフェやスパゲッティのサンプルがずらりと並ぶ、懐かしいショーケースが目印。35年前の創業時から、内装やスタッフの方々はほとんど変わらない。最近は、昔、親に連れてきたもらったお母さんが、子どもを連れてくることも多いそう。

NEW SUN
●双葉町3-17
☎072-635-4831
8:00〜18:00　木曜休

ママにいちばんやさしいカフェ。

高校の同級生が再結集して、女性だけで切り盛りするカフェは、ママたちが喜ぶことがいっぱい。姉妹店が雑貨店で、内装がおしゃれ。旅心誘う料理に、子ども連れにやさしいローテーブルやソファ席も人気の秘密。

CAFÉ Co machi
●舟木町1-10
☎072-633-6068
11:00〜19:00　無休

地野菜使用率ナンバーワンカフェ。

市北部で祖父が作っていた野菜の味を多くの市民に知ってほしい！とカフェをオープンさせた樋口オーナー。12年前のオープン以来その思いを抱き続け、今では日替わりランチの8割ほどの食材が茨木産で占められるほど。

野菜類はもちろん、米や味噌も茨木産。最近は果物の種類も増え、手作りジャムも揃う。

BONO cafe
●水尾2-14-35
☎072-632-5124
11:00〜16:00 LO
日祝休

茨木でいちばん冷たい店。

元々氷の卸売店だったノウハウを活かしたかき氷と、お芋のスイーツが女子を中心に好評だ。中でも人気は「芋づくし」（900円）で、不純物なしのふわふわ氷の上に「紅はるか」をたっぷり使ったソースをかければとろけるようなかき氷のできあがり！

開店前から行列必至の人気店。時間に余裕を持ってでかけよう。

氷とお芋の専門店 らんらん
●元町1-21　☎072-622-3351
10:00〜18:00　水曜休

茨木でいちばん料理好きの寺。

古くから伝わる庖丁道山蔭流の庖丁さばきを奉納する「山蔭流庖丁式」という行事が毎年4月18日に行われている。全国から集まった料理人の妙技は必見！

平安時代に総持寺を開いた藤原山蔭卿（ふじわらのやまかげきょう）は「料理の神」として知られ、そのためこちらは料理上達を願い、庖丁を奉納する名刹として全国から料理人が訪れる。もちろん一般の人も奉納できるので、古くなった庖丁はこちらへ。あなたも料理上手になれるかも！

副住職・中西隆壽さん

総持寺
●総持寺1-6-1　☎072-622-3209
境内拝観自由（8:00〜17:00）
http://sojiji.or.jp

茨木一のソウルフード。

茨木市民の心の味と言えば、たつみやの立食いうどん！あのやさしいダシの味、そしてちゅるんっと喉に流れていく滑らかな麺。阪急方面に用事があるときは、つい食べたくなってしまう身近な味だ。写真の玉子うどんは300円。安い！

たつみや
●別院町1-4
☎072-624-0360
9:00〜19:00
水曜休

特別寄稿エッセイ

齢七十、茨木在住65年、画業半世紀

井上直久

五歳の時、茨木へ越してきた。

それまで住んでいた平野（ひらの）（現大阪市平野区）から来て、ひんやりと空気の澄んだ、広々と開けた土地に思えた。

住まいは鉄筋三階建ての社宅。屋上からの眺めは、眼下に木造の民家が点在するだけで視界を遮る物も無く、小学生の僕には、雲近き頂きのように思えた。東方遠からぬ所を阪急電鉄の急行が駆け抜け、北側遙かな鉄橋を東海道線の列車が渡っていく。休日には父に連れられ近隣の名所をめぐった。神功皇后ゆかりの疣水（いぼみず）神社、山崎の渡し、粟生の光明寺……。

茨木小学校から、東中学、春日丘高校を経て金沢美術工芸大学に進み、初めて茨木を離れ、金沢の地に住んだ。金沢は城下町で茨木同様、街路は防御のため見通せぬよう、複雑に折れている。見通しの良い京や名古屋とは違い、自分の街は、複雑な路地を持つ迷路の街だったことに気付いた。

その頃から京の名庭、奈良の古刹を廻るようになり、絵もデッサンから一歩を進め、自分の心の中の風景を描きはじめた。そびえ立つ岩や、草の中の道、三角形の山などをアクリル絵具の厚塗りで描いていた。

やがて母校春日丘高校の美術教師となり、十年目にこれまでの作品のダイジェスト版のような、絵本『イバラードの旅』で講談社絵本新人賞を受けた。自費出版画集や漫画の本も出し、さらに10年近く教師を続けたが、思うところあって美術教師を辞めフリーとなった。

画業で立とうと、著書が好きだった絵本作家のたむらしげるさんに開業お知らせのハガキを送った。すると一面識も無かったにもかかわらず返事をいただき、「井上さんの作品が好きでした」と出版社を紹介して下さった。その結果の画集『イバラード博物誌』の出版記念、青山での初個展に、案内ハガキを見た宮崎駿さんが来て下さって、映画『耳をすませば』の挿話部分の背景を描くことになった。

そこに描いた、迷路のような市場の町、高い丘のそびえる野原の国イバラードは、今にして思えば幼児期を過した平野、そしてなによりこの茨木市の印象だった。

描いているときは言葉にはできない懐かしさを追っていただけだが、今は分かる。描くことで見えてきた心躍る景色が、私の住むこの街の、本当の姿だったのだ。

映画『耳をすませば』に登場するアーケードの原画。茨木阪急本通商店街のイメージも、この中に風味を加えている。

『イバラード』シリーズより「借景庭園」。

井上直久

いのうえ なおひさ

1948年大阪生まれ。府立春日丘高校卒業後、金沢美術工芸大学卒業。1973年に母校の春日丘高校美術教師に。教職の傍ら「イバラード」シリーズを制作し、1992年画家として独立。東京、パリ、ニューヨークなどで個展を開催。今も茨木に在住し、茨木市制施行70周年を記念し個展を開催するなど活躍中。

イバイチ！な歴史を重ねて。

市制70年のあゆみ。

昭和32年頃の国鉄茨木駅

Start

昭和23年 1948
- 茨木町・春日村・三島村・玉櫛村が合併し、市制を施行。
- 消防本部・消防署を設置。
- 市歌を制定。

昭和24年 1949
- 茨木川の一部が廃川となる。

昭和25年 1950
- いちばん初めの市庁舎が開庁する。

昭和27年 1952
- 茨木市立図書館が、府立ブックステーションとして発足。
- 市民病院開院。

昭和29年 1954
- 安威村・玉島村合併。

昭和30年 1955
- 福井村・石河村・見山村・清溪村合併。
- 見山・清溪出張所（現北辰出張所）開所。

昭和31年 1956
- 財政再建団体の指定を受ける。
- 箕面市の一部（旧豊川村の東部）を編入

昭和32年 1957
- 三宅村合併。

昭和38年 1963
- 名神高速道路が開通する。

昭和39年 1964
- 人口10万人を超える。

昭和41年 1966
- 市民憲章制定。

昭和42年 1967
- 7月豪雨で、本市に災害救助法発令。
- 市の木がカシに、市の花がバラに決まる。

昭和42年の豪雨

昭和25年、最初の市庁舎開庁

彩都のまちなみ

文化財資料館

川端康成文学館

キリシタン遺物史料館

いばらきスカイパレット

国史跡・郡山宿本陣

東奈良遺跡で発見された銅鐸鋳型

万博時の国鉄（現JR）茨木駅

元茨木川緑地

名誉市民の川端康成

若園公園バラ園

- **昭和43年 1968**
  - 市旗を制定。
  - 日本でいちばん初めのノーベル文学賞を茨木市で育った川端康成が受賞。名誉市民第1号の称号を贈る。
- **昭和44年 1969**
  - 人口15万人を超える。
- **昭和45年 1970**
  - 国鉄（現JR）茨木駅舎橋上化完成。
  - 阪急南茨木駅完成。
  - アジアでいちばん初めの万国博覧会で国鉄（現JR）・阪急両駅が、東の玄関口として利用される。
- **昭和49年 1974**
  - 東奈良遺跡から国内唯一の完全な銅鐸の鋳型を発見（昭和58年に国の重要文化財に指定）。
  - 自動車文庫ともしび号スタート。
- **昭和50年 1975**
  - 人口20万人を超える。
  - 青少年野外活動センターがオープン。
- **昭和52年 1977**
  - 保健医療センターがオープン。
- **昭和53年 1978**
  - いちばん初めの市民体育館がオープン。
- **昭和55年 1980**
  - アメリカ・ミネアポリス市といちばん初めの姉妹都市提携。
- **昭和57年 1982**
  - 夏の全国高校野球選手権大会に府立春日丘高校初出場。
- **昭和59年 1984**
  - 文化財資料館オープン。
  - 非核平和都市宣言。
- **昭和60年 1985**
  - 上中条青少年センターと川端康成文学館が完成。
  - 中国・安慶市と友好都市締結。
- **昭和61年 1986**
  - 人口25万人を超える。
- **昭和62年 1987**
  - 茨木でいちばん有名な人物画『聖フランシスコ・ザビエル像』が見つかった千提寺にキリシタン遺物史料館オープン。
- **昭和63年 1988**
  - 忍頂寺スポーツ公園オープン。
  - 香川県内海町（現小豆島町）と姉妹都市提携。
- **平成元年 1989**
  - 元茨木川緑地整備、西河原公園整備事業が終わる。
  - 市民総合センター（クリエイトセンター）オープン。
- **平成2年 1990**
  - いちばん初めの市民さくらまつりを開催。
  - 大阪モノレール（南茨木～千里中央駅間）開業。
- **平成4年 1992**
  - 中央図書館と富士正晴記念館がオープン。
- **平成5年 1993**
  - 西河原市民プールがオープン。
- **平成6年 1994**
  - 若園公園バラ園がオープン。
  - 福井市民体育館がオープン。
- **平成7年 1995**
  - 阪神・淡路大震災発生。
  - 人権擁護都市宣言。
- **平成8年 1996**
  - 障害福祉センターハートフル完成。
- **平成9年 1997**
  - 市庁舎南館完成。
  - 大阪モノレール（南茨木～門真市駅間）開業。
- **平成10年 1998**
  - 目垣遺跡から弥生時代中期の人面付土器が出土する。
  - 大阪モノレール彩都線（万博記念公園～阪大病院前駅間）開業。
- **平成11年 1999**
  - 東奈良遺跡で、最古級の小銅鐸が出土。
- **平成12年 2000**
  - ローズWAMがオープン。
- **平成13年 2001**
  - 郡山宿本陣の一般公開スタート。
- **平成15年 2003**
  - 東市民体育館がオープン。
- **平成16年 2004**
  - 彩都まちびらき記念式典開催。
  - 生涯学習センターきらめきがオープン。
- **平成17年 2005**
  - 子育て支援総合センターがオープン。
- **平成19年 2007**
  - 大阪モノレール彩都線（阪大病院前～彩都西駅間）が開業。
- **平成22年 2010**
  - 南市民体育館がオープン。
- **平成24年 2012**
  - サン・チャイルド設置。
- **平成25年 2013**
  - 大分県竹田市と歴史文化姉妹都市提携。
- **平成27年 2015**
  - 立命館いばらきフューチャープラザ・岩倉公園がオープン。
- **平成28年 2016**
  - JR茨木駅東口駅前広場の愛称がいばらきスカイパレットに。
  - 郡・倍賀遺跡から弥生時代中期の人形土製品が出土。
- **平成29年 2017**
  - 市のブランドメッセージ（ロゴ）「次なる茨木へ。」が決定。
  - 中河原遺跡から複数の高床建物が描かれた弥生時代中期の土器が出土。
  - 新名神高速道路「茨木千提寺インターチェンジ」供用開始。
- **平成30年 2018**（70th）
  - 茨木でいちばん初めの文学賞「川端康成青春文学賞」を創設。
  - JR総持寺駅開業。
  - 大阪北部地震が発生する。
  - オール茨木ロケの映画『葬式の名人』制作開始。

茨木市まち魅力発信課
〒567-8505
茨木市駅前3-8-13
Tel 072-622-8121（代）
2018年11月発行

企画制作／株式会社１４０Ｂ　表紙イラスト／井上ミノル　デザイン／坂本佳子（大向デザイン事務所）

次なる茨木へ。

茨木には、次がある。
大阪市・京都市に次ぐ街。
自然と都市が次いでいる街。
次世代を育む学生が多い街。

次々とひろがる、はてしない未来。

黄色い斜めのストライプ。
その角度は、地球の「地軸」と同じ23.4度。
地軸の傾きは日本に四季をもたらし、
次々と、この街を未来へいざなっている。

次なる茨木は、どうなるだろう。
次なる茨木は、何をするだろう。

次なる茨木へ。
茨木市の新しいメッセージです。

茨木には、次がある。

茨木市は、2017年2月に、多くの方々からの意見をいただきながら、ブランドメッセージ「次なる茨木へ。」とロゴを決定しました。

ブランドメッセージ（ロゴ）は、地域の魅力やまちの目指すところなど「その地域らしさ」をイメージし、多くの皆さんの共感を呼ぶための合言葉です。市内大学の授業や各種ワークショップなどを通じて得た、多くの方々の想いを込めて、茨木にゆかりのあるブランディングディレクターが作成しました。

ブランドメッセージ（ロゴ）は、次のような想いが込められています。

- 「茨木」の漢字の中にある「次」という文字を読み取り、過去・現在・未来をつないでいく「次々とひろがる、はてしない未来」といったイメージ。
- ロゴの黄色い斜めのストライプは、地軸と同じ23.4度の傾きになっており、地軸の傾きが日本に四季折々の豊かな彩りを生み出しているように、茨木市もこれから多彩で豊かなシーンを創造していくという想い。
- 明るい黄色は、茨木市旗の紫紺色と補色関係（互いの色を最も際立たせる色）。

市では、現在、ブランドメッセージ（ロゴ）を、元茨木川緑地の街路灯フラッグや各種パンフレットなどに使用しています。また、「まちづくりに参加したい」「茨木市を応援したい」という想いがある方に、ブランドメッセージ（ロゴ）を広く活用いただきたいと思っています。活用方法などの詳細は、茨木市ホームページをご覧ください。